

アツという間の一年間でした。生徒一人一人にとってどんな一年間だったのでしょうか。

昨年の4月にスタートした平成28年度も、本日の修了式をもって一つの区切りを迎えました。卒業生を含めた皆さんは、赤塚中に新しい風を吹かせてくれました。この風は、とても爽やかな笑顔となり、元気をもらえる挨拶となり、そして協力し合う心となって、学校を包んでくれたのです。



小野瀬さん、新井さんの発表の中に、「赤中プライド」を意識して生活してきたとのコメントがあります。どの学年の生徒もそのことを理解し、行動に移す努力を教職員と一緒に取組んでできました。この取組を意識することこそ、心の中に人としてのプライドが生まれた証と考えます。

赤塚中で二年間過ごしてきた私たち二年生は、みんなで赤中プライドを実践してきました。その成果として、きちんとした学校生活を送れていると思います。春休み中にも、赤中プライドを意識して生活し、三年生への準備をしていきます。

この一年の学習では、課題と成果がありました。私の勉強に対する取り組み方です。私は勉強する時と、しない時のむらがあります。テスト前になるといつも慌ててワークに取り組み自分がいきました。このことを改善しようとして努力したことで成果が生まれました。二年生の後半では、毎日の学習を継続していくことを意識しました。その結果、むらのない家庭学習ができるようになりました。春休みも、日々努力して、三年生への準備を進めたいと思います。

二年生での生活が、あつという間に過ぎ、中学校生活も残り一年となりました。時間の速さに、驚きと焦りを感じています。一年を振り返ってみると、船中泊や職場体験活動など、新しい経験をすることができました。特に、三年生が引退した部活動で、私が印象的です。

一年間を振り返って

二年 小野瀬 花菜

一年間の反省と二年生への抱負

一年 新井 愛果

赤塚中学校に入学して、あつという間に一年間が過ぎました。初めての体育祭や合唱コンクールは、とてもよい思い出になりました。私は中学生として、特にがんばったことが三つあります。一つ目は、学習面です。小学校の頃から比べて学習内容が難しくなり、成績が九教科にまで広がりました。また、学期ごとに定期テストが二、三回あり、テスト二週間前になるとワークの範囲表が出て、勉強が手におえないことが何回もありました。私は特に苦手な教科を重点的に学習しました。国語は、ワークを何回も解き直して、テストでもよい点数をとれるようにしました。あと二年後には、高校入試があります。志望校を今の段階から決めておき、まずはできることから継続的に学習していきたいと思えます。

二つ目は、部活動です。日々、つらい練習を行ってきた、何事にもすぐにあきらめず全力を出し切ることの大切さに気がつきました。これから、記録会や大会が多い時期になりますが、練習をしっかりと行って満足する結果が得られるように努力していきたいです。

三つ目は、生活面です。私は、学年中央委員として、一年間努めてきました。そこで私が一番心がけたことは「赤中プライド」です。授業の三分前に着席することや朝八時十五分までに荷物を片づけることなど、私を含めて、クラス全体が時間を守って生活することができるようになります。船中泊を伴う自然教室や職場体験などの学校行事を楽しくできるように、また、後悔することがないようにしたいです。明日から始まる春休みを有意義に過ごすため、二年生でよいスタートが切れるように準備していきたいです。



ノ一原稿で発表することを推奨しています。原稿を読むのではなく、自分の言葉として、聞き手に伝えてほしいと思うから出す。ノ一原稿の発表には、心配がつきものです。話したいことの要旨を繰り返して、皆さん勇気をもって臨んでいます。

「自主」「自立」をどう育てるか

子供の「自主」「自立」の心をどう育てていくか。学校でも、家庭でもしっかりと意識していく必要があります。しつけや安全面から、言われたままに行動することが求められる幼少期や小学校低学年の頃は、素直に行動する子が手がかからず、親としてはとても有り難い存在です。小学校高学年や中学校になると、子供の自我も目覚め、思春期を迎えるとともに親の思うように行動してくれなくなります。いつの間にか、勝手な行いも増えてくるものです。

自己決定させること、自分の考えや思いを自分の言葉で語れるようにすること、そのためにも親が子供の考えを代弁しないことが肝要です。